

2024年天濃池ビオトープの会 秋の活動（報告）

報告者 米道綱夫

■日 時 11月18日（月）11時～14時30分

■参加者 精華高校 3年7組（20名） 引率教員 小松氏ほか1名

堺市農業土木課2名／坂口課長補佐・北口氏

天濃池ビオトープの会5名／垣井・田中伸彦・麻生・野口・米道

今回の活動は本堤西側の階段づくりとクラフトで、2班に分けてそれぞれ生徒がふたつの活動ができるようにした。堺市農業土木課が階段づくりの丸太杭を調達してくれた。階段づくりの生徒達への指導にあたり、まず階段の朽ちかけている木の除去から始まった。階段の横木を支えている木がほとんど腐っているものもあり、10年以上経つとほとんど朽ちている。今回はこの手直しができたのがよかったです。横木を切る作業、杭になる木を切る作業は男女それぞれみんな経験できた。次に杭になる木を打ち込む作業は足場が悪く力が入らないところもあったがなんとか打ち込んだ。女学生もみんな経験できたのはよかったです。杭の頭を目掛けて掛矢をふり下ろすときに重心がぶれないで打ち始めた時は木の杭がかなり深く打ち込んでいた。みんな結構集中してやってくれたので12段の階段づくりは早く終わった。丸太杭の数が少ないので三分の一ほどしかできなかったのが残念だが、要領を覚えたので次回は最後まで余裕を持って階段づくりができると思う。もし予算が余分にあればクレオソートなどの防腐剤を塗って耐久年数を長くする工夫も必要かと思う。

さてバスフィッシングを試みていた生徒は数回岸から10mのところを中心に投げていたが当たりはなかった。授業時間終了まで粘ったが全く当たりがなかった。擬似餌が古びて新鮮さがなかったのかポイントを掴めていなかったか、よくわからない。

工作はどんぐりで弥次郎兵衛・コマ・殻斗を繋いだ芋虫・桜の枝の鉛筆を作った。芋虫はナラガシワの殻斗の中心に穴を開け、それを10個ゴム紐で結び弾力性を持たせ、各々がゴニョゴニョ動くようにした。そして最後は顔を面白おかしく描くのである。動眼を使うのも良いが顔をめいめいが動物に似せて作ったのか、面白くできていた。弥次郎兵衛はバランスをいかに取るかだ。竹串を長くしてその両端にどんぐりを突き刺して左右均等のバランスにする。これ

が結構難しく挑戦する生徒も少なかった。桜の木の鉛筆は鉛筆の先を上手に丸く少し長い円錐形にすることだ。綺麗な形にしようと思えばまるで鉛筆削りで削ったような形に仕上げることだ。生徒の皆さんは割と手際良く鉛筆らしさを出していた。今回は午前、午後と時間に余裕があったので工作で一人2個以上、4個も作った生徒もいた。皆さん満足して帰っていったのが印象的だった。

一本の丸太杭を横木用と杭用に切断



横木2本の両サイドに杭を打ち込む



徐々に堤の上段か階段ができあがる



クラフト班は、テッキで作業に夢中



できたクラフト作品を皆で発表



生徒の皆さん、お疲れ様でした!!

